



ペンゴ

2019年12月1日発行
(毎月1回1日発行)

カトリック谷山教会

891-0113
鹿児島市東谷山2-33-13
TEL 099-268-2084
FAX 099-284-5738

E-Mail: taniyama-cc@lagoon.ocn.ne.jp URL: http://www5.ocn.ne.jp/~tycc/

発行人： 頭島 光 神父 編集委員： 太田勇二郎 岸誠之助 上原敬子 上釜照美

フランシスコ教皇さま来日の喜びに感謝して

11月23日、38年ぶりにローマ教皇様が日本の地を訪れました。現代の日本はかつてと違い、リアルタイムで情報が入ってきて、今、どこにおられるのか、何を話しておられるの、すべてを知ることができました。それでも、教皇が誰かを知らない人がいて「一体何のためにわざわざ日本に？」と。それほどに一般の日本人にはピンと来なかったのでしょうか。でも、教皇様の来日を心から喜び、お迎えすることができて、まさに恵みの時でありました。

◆長崎で核兵器廃絶を訴える

長崎でミサ会場となった長崎県営野球場「ビッグ N スタジアム」。そこで24日、共に「王たるキリストの祝日」を祝い、教皇ミサが執り行われました。およそ3万人が参加。私たちが総勢33人で谷山から参加しました。他にも大勢の信徒たちが一堂に会した瞬間でした。午前中は雨に降られましたが、午後には晴れて、特設ステージの祭壇の脇には、あの「被爆のマリア」様が運ばれ、教皇様の手によって献香がなされました。その前でしばし頭を下げて祈られる教皇様のお姿が印象に残りました。私たちが、心から祈る平和と安定は、核保有にはありません。核のもとに作られる偽の安全は不要です。真の平和は「核保有すらない」ことが大前提です。

◆世界の平和と安定

世界に真の平和と安定は、人類家族が互いに助け合い、共に生きることです。そのために各人与えられた使命と責任を果たすことです。教皇様は、そのように述べてから、この長崎の町こそが「核兵器によって人類と環境にもたらされた大惨事の証人」とであると叫ばれたのです。さらに、教皇様は何百万人もの子供や家族が非人道的な状況の中に追いやられている中で、軍事兵器に大金を使って大儲けし破壊を良しとする人々に対し、これこそが現代の「神に背くテロ行為」と強く断言されたのです。

◆復活を告げる場所

当日の午前中、教皇様は殉教の地、西坂の丘をも訪ねられました。教皇様は「一人の巡礼者としてここを訪れることを心から待ち侘びていた」と言われました。それは「同じ信仰を持つ日本の兄弟たちの信仰に強められるから」とも仰られました。26聖人の一人パウロ三木は、教皇様と同じイエズス会士の一人でした。その意味でも、この西



坂は「殉教者たちの信仰における勝利の丘」であり、「復活の命に至る場」でもあるのです。死はそれで終わりではなく、神の命に招かれる門であり、始まりです。新しい命の種が西坂に撒かれたと言われる、教皇様のお言葉に感動しか浮かびません。

◆愛されるより愛したい

今回の来日で、教皇様が私たちに伝えて下さった最大のメッセージは、「核のない世界こそ実現すべき世界であり、不可能な平和ではなく必要とされている」ということです。この決定的な確信をもって核のない世界を作るため、私たちが為すべきことは、心の奥底から「恐れや不信、そして敵意」を徹底的に排除することです。貧しい人のことを決して忘れてはいけません。彼らの苦しみに無関心ではられません。心の痛みを覚えている友と共に立ち上がり、平和のために声を上げましょう。そして「愛される者でなく、愛する者に」なりましょう。

主任司祭 トマス頭島光 神父

今月の聖人から

聖ニコラオ司教

12月6日

キリスト教国の子供達に最も人気の或る聖人といえば、誰しも気がつく通り聖ニコラオ司教であろう。世に言うサンタ・クロースのお爺さんが即ちそれで、日本やプロテスタントの国などではクリスマスに子供達へいろいろの贈り物を持って来てくれると言われている。

ドイツその他のカトリック国では、その祝日の12月6日に、親・親戚などが聖ニコラオに扮して良い子には褒美を与え悪い子には訓戒を与える習慣がある。しかし実際には、聖ニコラオは子供達の保護者であるばかりでなく、処女、囚人、船員、商人、学生たちの保護の聖人としても知られ、信仰を擁護した有名な司教である。

この聖人は270年小アジアのパターレに或る富豪の子と生まれた。そして身分相応に学問はもちろんのこと宗教方面に於いても立派な教育を受けたが、両親は早く世を去って彼に莫大な財産を遺した。ニコラオはそれを善業に用いようと決心し、且つその通りに決心を実行した。

343年ニコラオは73歳で神の許に召されて、エーゲ海に面したミーラの聖堂に葬られた。そして1087年までその地は巡礼の中心地となった。その後聖人の遺骨はイタリアのバリ市に移され、大聖堂が建てられた。



Taniyama CC NEWS

11月09日(日) 夜ミサの中で堂園祐輔ちゃんが、受洗されました。ご両親は、堂園大輔さんと詩織さんで、詩織さんは伊藤祐久さん(耳鼻科院長先生)の娘さんです。

洗礼名は、トマス・アクイナスです。伊藤先生と同じ洗礼名で「私は、七田神父様からつけていただきました。

孫もトマス・アクイナスのように賢く育て欲しいとの願いでつけました。」と笑顔で語って下さいました。祐輔ちゃん、立派な人になって下さいね。



2019/11/09 洗礼式 谷山教会にて

典礼一口メモ <アドベント>

今月一日からアドベント、即ち「待降節」に入ります。ラテン語で adventus (=アドベントゥス) から来る表現で「到来」を意味します。到来は神から人の世界にやって来る、ということですが、言うまでもなく、キリストのご降誕のことを指しています。今年はちょうど12月1日が待降節の第一主日となり、4週間の時節がクリスマス前夜まで続きます。典礼色は紫ですが、その意味は四旬節の時と同じ「回心の時」です。

かつて教会では断食と悔い改めの時期でもあり、食べ物の制限である、大斎(一日の一食を断食)、小斎(肉食禁止)が定められていました。但し、第三の主日だけはバラ色の祭服を着、オルガン演奏が許可されたと言われています。谷山ではバラ色の祭服がないので、できませんが・・・

希望の共同体である教会

一年が過ぎ再び待降節が巡って来ました。この機会に、将来における主イエスキリストの再臨について、思いめぐらしてゆきたいのです。待降節と言えば、主が昇天された時から、既に人類の歴史は一つの巨大な待降節そのものなのであります。「私たちの希望、主イエスキリストが来られるのを待ち望んでいます」という機会が示す通り、主を待ち望み、その再臨を期して待つことが、私たちのすべての望みをつつんでいます。主の現れの時、私たちの願いと望みとは、全て、叶えられるであろうと思います。神様の真実がそれを約束してくださったのです。

耐え忍ぶ

主イエスは世の終わりにもう一度来て下さり、私たちに約束されている復活と永遠の命を完成して下さいます。この希望は、この世のどのような苦しみや悲しみ、困難によっても、そして死の力によっても失われることはありません。主イエスキリストによって与えられているこの救いの約束のゆえに、私たちは希望をもって喜びつつ生きることができるのです。この希望による喜びのゆえに私たちは、「苦難を耐え忍びつつ」生きることができます。人生には様々な苦難があり、信仰をもって生きる私たちにおいてもそれは同じです。むしろ信仰をもって生きようとする時に、隣人を愛し、尊敬をもって進んで相手を優れた者と思って生きようとする時に、かえって大きな苦しみを受けることさえあります。主イエスキリストのご生涯がそうであったように、です。しかし私たちはそのような苦しみの中で、あの終わりの日の救いの完成の希望を与えられているが

ゆえに、その苦しみは最後決定的なものではなく、過ぎ去るものだけだということを知っているのです。最後には、主イエスによる神の恵みが勝利し、主イエスの支配が完成することを確認して生きることができるのです。そこに、苦難を耐え忍ぶ力が与えられるのです。この「耐え忍ぶ」

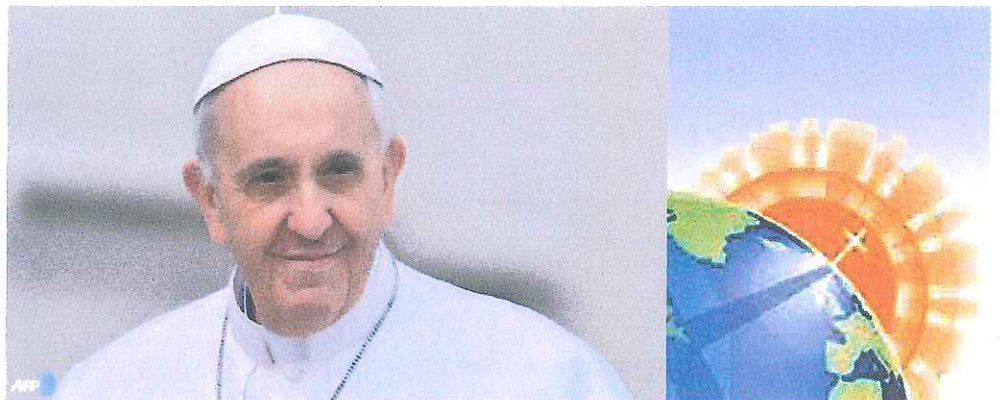
という言葉は、あるもの下に留まる、という意味です。苦しみの下にしっかりと留まって、そこで生きるのです。それは、その苦しみを神から与えられたものとして受け止めて歩む、ということでもあります。私たちの人生における喜びも苦しみも、全ては主なる神から与えられるものです。そして神は最終的には私たちを全

ての苦しみから救い出し、神の子として下さり、復活と永遠の命を与えて下さるのです。そのことを信じて生きるならば私たちは、人生の様々な苦難において、忍耐してそこに留まって生きることができるのです。

希望の共同体である教会

苦しみからの解放は、その苦しみを神からのものとして受け止めること、そしてその神が、独り子イエスキリストによって、最終的な救いの希望を与えて下さっていることを見つめ、その希望に支えられてその苦しみを耐え忍ぶところにこそ与えられるのです。

ですから、希望の共同体である教会として私たちは主イエス・キリストを信じる信仰によって希望に生きることができるようになることについていつも深く黙想する必要があると思います。信仰生活の中では希望の共同体の姿があるのです。人間として私たちの様々な思いを越



えて、最終的には神様のみ心が実現していくのです。そのことを信じて、その神様のみ心に身を委ねて歩むなら、私たちは、何とかして何人かでも救うために、福音に共にあずかる者となるために、苦難を耐え忍び、希望をもって喜びつつ生きましょう。

助任司祭 ドン・ボスコ神父

令和元年 谷山教会 12月の予定と祝日表 (12/1~12/31) 西暦2019年

日時	典 礼 と 行 事	朗読奉仕	掃 除	班 会 等
12月1日 (日)	6:30&9:00 ミサ後 待降節第1主日 (宣教地召命促進の日・献金) 司牧評議会			
2日 (月)	6:30 朝ミサ			
3日 (火)	祝日 日本宣教の保護者 聖フランシスコ・ザベリオ司祭 6:30 朝ミサ			
4日 (水)	19:00 ミサ後 召命ミサ 求道者勉強会IV-7			
5日 (木)	6:30 朝ミサ			
6日 (金)	19:00 初金ミサ			
7日 (土)	記念日 聖アンブロジオ司教教会博士 ミサ後 19:00 教会内外大掃除とXmas飾り付け (9:00ひまわり幼稚園Xmas会) 待降節第2主日のミサ		⑤⑪	⑤⑪掃除後教会
8日 (日)	6:30&9:00 14:00 待降節第2主日 市民クリスマス	1-塩貝・2-村山		
9日 (月)	祭日 無原罪の聖マリア 6:30 朝ミサ			
10日 (火)	6:30 朝ミサ			
11日 (水)	19:00 召命ミサ			
12日 (木)	6:30 朝ミサ			
13日 (金)	記念日 聖ルチアおとめ殉教者 6:30 朝ミサ			
14日 (土)	記念日 聖ヨハネ(十字架の)司教教会博士 19:00 待降節第3主日のミサ		⑥⑦	⑥⑦掃除後教会
15日 (日)	6:30&9:00 待降節第3主日	1-上釜・2-上原		
16日 (月)	6:30 18:00 朝ミサ 日独クリスマス会			
17日 (火)	6:30 朝ミサ			
18日 (水)	19:00 召命ミサ			
19日 (木)	6:30 朝ミサ			
20日 (金)	6:30 朝ミサ			
21日 (土)	19:00 待降節第4主日のミサ		⑧⑨	⑧⑨掃除後教会
22日 (日)	6:30&9:00 待降節第4主日	1-田代・2-當		
23日 (月)	6:30 朝ミサ			
24日 (火)	クリスマス前夜 6:30 19:00 朝ミサ 聖夜ミサ	1-増田・2-岩崎		
25日 (水)	主の降誕 10:00 19:00 クリスマス日中ミサ 聖母園クリスマス会	1-岸・2-岸は		
26日 (木)	祝日 聖ステファノ殉教者 6:30 朝ミサ			
27日 (金)	祝日 聖ヨハネ使徒福音記者 6:30 朝ミサ			
28日 (土)	祝日 幼子殉教者 19:00 聖家族のミサ		⑩	⑩掃除後教会
29日 (日)	9:00 聖家族	1-岩崎・2-増田		
30日 (月)	6:30 朝ミサ			
31日 (火)	6:30 朝ミサ			
1月1日 (水)	0:00 10:00 元旦ミサ 元旦ミサ 新成人のお祝い			

奉納は掃除当番班が行う
 十二月の行事当番は五・十一班

ロザリオの祈り	[毎週(火) 10:00]	3日、10日、17日、24日、31日
レジオ・マリエ	[毎週(水) 14:00]	4日、11日、18日、25日
聖書と教理- I	[毎週(木) 15:00~16:30]	5日、12日、19日、26日
聖体礼拝	[毎週(木) 13:30~14:30]	12日、19日、26日 (5日はサビエルで7:00)
聖書と教理- II	[毎週(金) 9:00~10:00]	6日、13日、20日、27日